

平成31年第3週 県中保健福祉事務所感染症レター

(H31.1.14~H31.1.20)

	福島県		県中地域				須賀川・岩瀬地区				石川地区				田村地区			
	第3週	第2週	第3週		第2週		第3週		第2週		第3週		第2週		第3週		第2週	
	感染症動向	感染症動向	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報
インフルエンザ	4537	2678	418	459	292	194	245	272	179	94	15	76	14	28	158	111	99	72
咽頭結膜熱	17	34	4	3	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	3	4	0	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	135	113	6	0	4	0	5	0	0	0	0	0	0	1	0	4	0	
感染性胃腸炎	178	284	51	24	72	24	49	8	65	11	0	5	0	8	2	11	7	5
水痘	17	34	0	4	7	9	0	2	7	7	0	0	0	0	2	0	2	
手足口病	5	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
伝染性紅斑	50	80	4	0	15	2	4	0	13	0	0	0	2	2	0	0	0	
突発性発疹	24	33	4	0	3	0	2	0	3	0	0	0	0	2	0	0	0	
ヘルパンギーナ	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性耳下腺炎	4	8	1	1	4	18	0	0	0	0	1	1	4	17	0	0	0	1
RSウイルス感染症	30	36	3	0	3	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0		0	0		0	
流行性角結膜炎	15	20	0	0	3	1	0	0	3	1		0		0	0		0	

※平成30年1月1日より百日咳が全数把握疾患となりました。また、風しんの届出が「診断後7日以内」から「診断後直ちに」と変更になりました。
 ※平成30年5月1日より急性弛緩性麻痺が全数把握疾患となりました。

【感染症発生動向調査】 ※定点医療機関からの情報をもとに集計 【学校欠席者情報】 ※保育園、幼稚園、小中学校、高等学校の欠席者情報です。

県中地域の状況

<p>流行中</p> <p>〈インフルエンザ〉 県内全域で流行が続いています。インフルエンザは高熱、関節痛等全身に症状が突然現れます。併せて普通の風邪と同様、鼻汁、咳等の症状もみられます。まれに、乳幼児は脳症を、高齢者は肺炎を伴うなど、重症化するおそれがありますので、早期受診を心掛けてください。感染経路は飛沫感染、接触感染です。</p>	<p>※飛沫感染 患者の咳やくしゃみのしぶきに含まれる細菌を吸い込むことで感染します。マスクの着用や咳エチケットを実施してください。</p> <p>※接触感染 細菌が付着した手で口や鼻に触れることで感染します。手洗い、うがい、頻りに人が触れる場所(ドアノブ等)についての環境整備など基本的な対策を徹底することが必要です。</p>
<p>小流行中</p> <p>〈咽頭結膜熱〉 アデノウイルスの感染により、38~39度台の発熱、のどの痛み、結膜炎といった症状を引き起こす、小児に多い病気です。患者とのタオルの共用など綿密な接触は避けましょう。</p> <p>〈A群溶血性レンサ球菌咽頭炎〉 A群レンサ球菌による上気道の感染症です。感染経路は飛沫感染、接触感染です。</p> <p>〈感染性胃腸炎〉 食品や飲料水をとおり経口的に細菌、ウイルスなどの病原体が腸に感染してさまざまな消化器症状を引き起こす病気です。</p> <p>〈伝染性紅斑〉 ヒトパルボウイルスB19による流行性発疹性疾患です。頬に出現する蝶翼状の紅斑を特徴とし、小児を中心にしてみられます。感染経路は飛沫感染、接触感染です。</p> <p>〈RSウイルス〉 RSウイルスの感染による呼吸器感染症です。症状は軽い風邪様の症状から重い肺炎まで様々です。感染経路は飛沫感染、接触感染です。</p>	

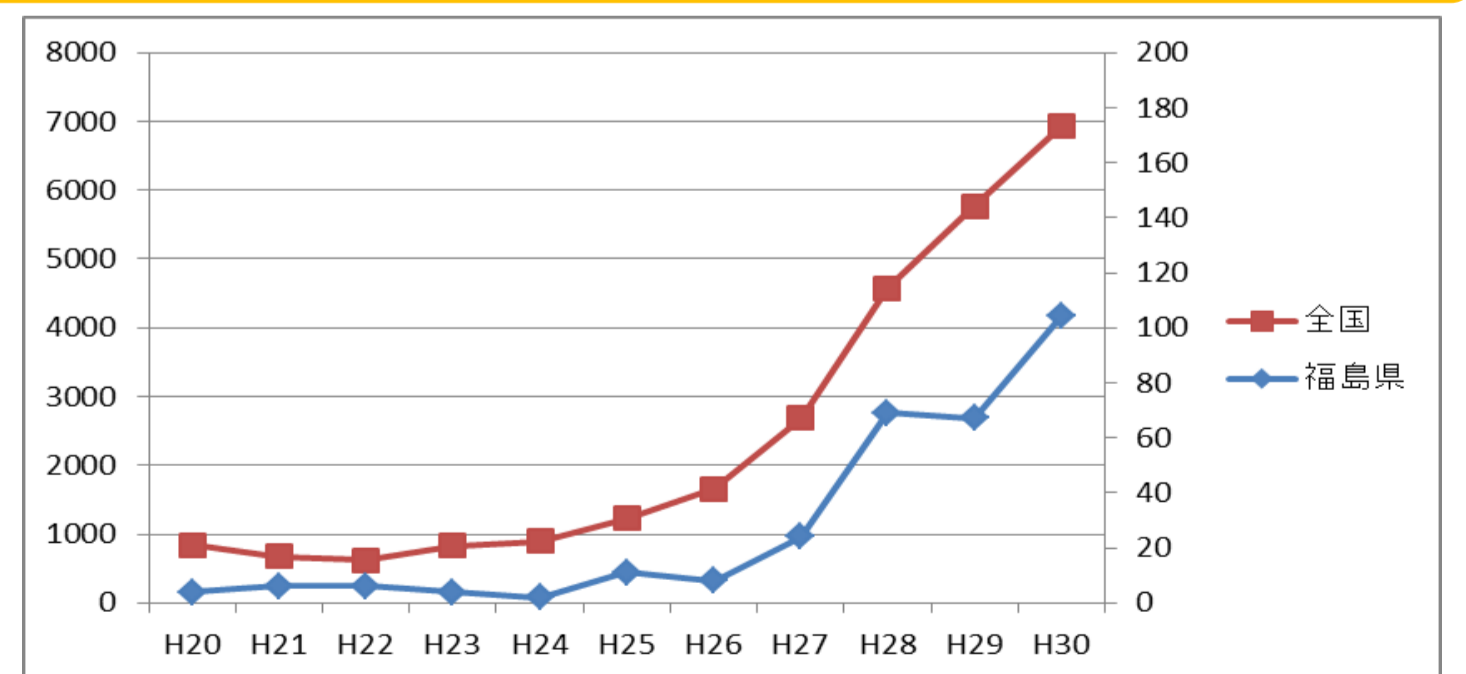
梅毒の報告が増加しています

県内の発生報告状況

平成27年以降増加が目立ち初め、平成27年は前年の3倍、平成28年は前年の2.9倍となりました。平成30年には104件の発生報告がありました。

梅毒とは？

- 梅毒トレポネーマという細菌の感染によって生じる性感染症です。
- 主に性的接触により、皮膚や粘膜を通して感染が広がります。
- 感染後3~6週間程度の潜伏期を経て、経時的に陰部への潰瘍、リンパ節の腫れなど様々な臨床症状を呈します。時に無症候になりながら進行するため、診断や治療の遅れにつながることがあります。
- 妊婦が感染すると母体から胎盤を通じて胎児に感染し、死産・早産・新生児死亡・奇形につながるおそれがあります。



※平成30年のデータは報告数の累積のため未確定値です

この情報に関するお問い合わせ先: 県中保健福祉事務所 医療薬事課 感染症予防チーム

TEL: 0248-75-7818

E-mail: kenchu_kansensyoyobou@pref.fukushima.lg.jp